

談見

昭和50年(1975年)9月3日(水曜日)

(3) 13版

市民に核軍縮訴え

朝永博士らが報告会

オツ
ウ会議
パグ
ウシ

【京都】第二十五回パグウォッシュ・シンポジウムの記念講演会が二日午後六時から京都市下京区山一ホールで開かれた。朝永振一郎・東京教育大名誉教授ら四人が約三百人の聴衆を前に講演、今度の京都シンポジウムの成果を評価し、全面核軍縮の必要性、核兵器廃絶を強く訴えた。

最初に朝永名誉教授が「第二十五回パグウォッシュ・シンポジウム日本開催をめぐって」と題し、二十一年間にわたるパグウォッシュ運動を世界情勢と関連づけて振り返り「現実的とされてきた核抑止体系は必然的に新しい核技術(A B M、MIRVなど)を生み出し、本格的な解決策でない。今シンポジウムはラッセル・アインシュタイン宣言の精神に戻って運営された」と話し、ついで「J・ローランド・ロンドン大教授(パグウォッシュ協議会議長代行)は「パグウォッシュ以降、軍拡競争はさらに進み、今人類を何十回も滅ぼすほどの蓄積となった。私は

ちば所期の目的を達成することは出来なかつたかも知れないが努力はムダではなかつた。今度の京都シンポジウムは核を地球上からなくすという元来の目的を再確認するの役に立った。核軍備競争はバカけている。そして戦争や戦争による脅しは意味がない」と述べた。

国連事務総長特別顧問で軍縮問題の専門家であるW・エフ・エム・イン(カナダ)は「人類といふ種は危機にさらされている。このテーマで「人類は核、人口、貧困、公害の四つの罠の上で生活している。後半の三つは十年たっても全人類を滅ぼすことは不可能だが、核はそうでない。緊張緩和で計画的な戦争の心配はないが、偶発戦争やテロリストによる核使用は考えられる。これまでの軍備管理方式は失敗といえる。核兵器、戦争は絶えず今からでも遅くない」と断言し「ヒールした。

c092-17-008